

年 月 日 名前

1 わたしたちの国土

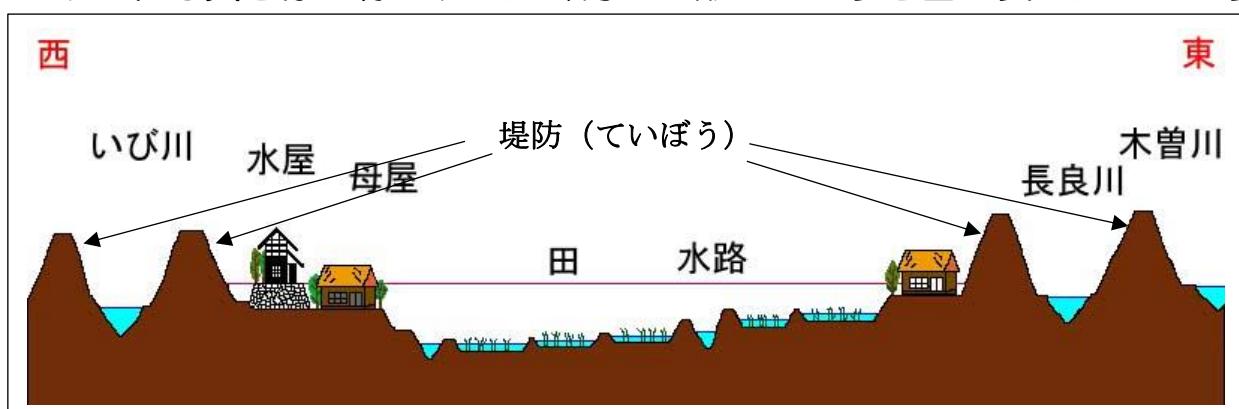
3 低い土地のくらし（総集編）

1 写真の①～③に当てはまる川の名前を（ ）の中入れましょう。

① (捩斐川) ② (長良川) ③ (木曽川)



2 下は、写真を赤い線で切った部分の地形のようすを図に表したものです。



この図から気が付くことをたくさん見つけましょう。

【見つけたこと】

- ・田んぼより高いところに、水路や家がある。
- ・堤防で囲まれた中で人々は生活している。
- ・川が、生活しているところより高いところにある。（川より低いところで生活している）
- ・いび川と長良川にはさまれたところでくらしている。
- ・長良川と木曽川は堤防だけで分かれている。

海津市のような堤防に囲まれた低地は（ 輪中 ）と呼ばれます。

3 2つの大工事

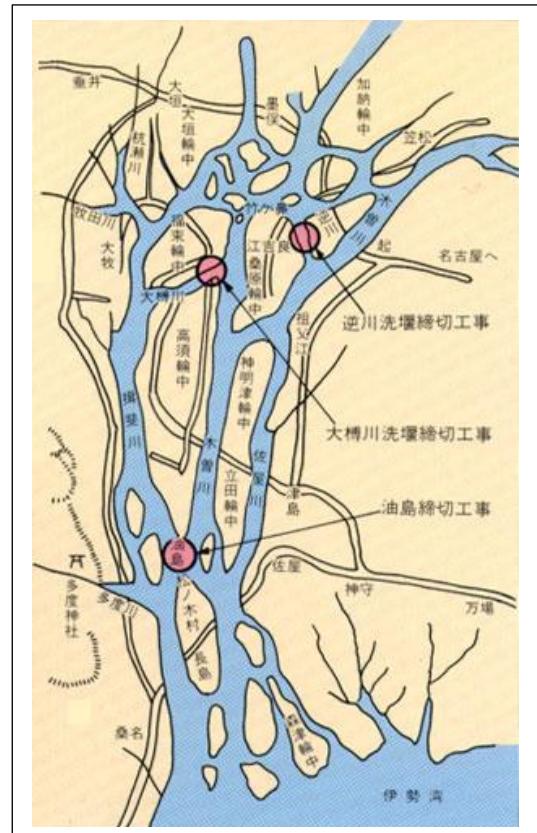
この地域は川にかこまれた地形のため、これまで水害にたたかってきた歴史があります。その中でも、大きな工事として、江戸時代の宝暦治水工事があります。

これは、薩摩藩（現在の鹿児島県）の武士たちによるもので、長良川と揖斐川（いびがわ）を分けるため「千本松原」を築きました。



左の写真は、その中心者の平田靭負（ひらたゆきえ）です。

また、下の写真は、現在の「千本松原」のようすです。



その後の大きな工事としては、明治時代のオランダ人【宝暦の治水工事の頃の川のようす】のヨハネス・デレーケ（右の写真）による三川分水工事があります。この工事は、完成まで25年ほどかけた大規模なもので、その結果80ほどあった輪中が30ほどにまとめられ、水害の心配も少なりました。



4 それは何？何のため？

そのような中、人々は水害から身を守り、農作物を育てるために、さまざまなくふうをしてきました。

次のページでは、これに関する写真を紹介します。それぞれの写真は「何」で、「何のため」の工夫か整理してみましょう。

勿論、教科書・資料・インターネット等を使ってかまいません。お家の人に、聞いてみるのもOKです。

年 月 日 名前

写真	名前（何ですか）	目的（何のため）
	水屋（みずや）	<p>ヒント：内部のようす</p>  <p>水害があった時のひなん、その際の備蓄品を置いておくため。</p>
	堀田（ほりた）	<p>ヒント：何をしているのかな</p>  <p>水路を使って船で移動し、中にある田んぼで稲を育てるところ。水が多い地域の工夫。</p>
	水防演習（すいぼうえんしゅう）	<p>海津市では、市と市民が協力して、水害に備えての訓練を行っている。</p>
	水防倉庫（すいぼうそうこ）	<p>ヒント：内部のようす</p>  <p>水害があった時の備蓄倉庫。昔の水屋にあたる。</p>
	<p>ヒント：未来廣告ジャパン</p>  <p>高須輪中排水機場（たかすわじゅうはいすいきじょう）</p>	<p>輪中の中に、水がたくさん水が入ってしまった時に、いらない水を排水するために作られた排水機場。輪中の水はけをよくするため。</p>

写真	名前（何ですか）	目的（何のため）
	<p style="color: red;">うめ立て前の水田</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </p> <p style="color: red;">うめ立て工事が終わった後の水田</p>	<p>上の写真から下の写真のようになったのはなぜでしょう。この地域の土地のようすから予想しましょう。</p> <p>一つ一つの田んぼにいちいち船で移動して作業するのではなく、農地を埋め立てることで、大型の機械を使った農業ができるようになった。</p>
	<p style="color: red;">ビニールハウスでのトマトさいばい</p>	<p>米作り以外の新しい農業を始めることで、新たな地域の特産物を生んだり、収入をえられるようにしたりするため。</p>

5 1976年9月12日の水害 「長良川堤防決壊」について

三大河川（揖斐川・長良川・木曽川）は、学習した通り豊かな水の地域であり、水とのたたかいがくりかえされた地域でもあります。

「千本松原」や「三川分水工事」によって水害は少なくなりましたが、それでも、私（小堂）が高校三年生の時には、大雨が続き長良川の堤防が決壊しました。右の写真のように輪中地域は水びだしになり、私の友達の多くもひがいにあいました。

今回、世界中ではコロナ感染で大パニックとなりましたが、これからの未来も何が起きるか分かりません。そんな時、私たちが生きていくうえでどんなことが大切か考え、自分の考えを書きましょう。



- 地形の特色を理解し、どんな危険性がありそうか考えておき、何か起きた時は、自分の命を守る行動をとる。
- 正しい情報（天気予報や被害状況）をつかんだうえで、より適切な方法を考える。
- 地域で協力し、自分たちの生活を豊かにするアイデアを出し合う。